

湯川の禁漁区域拡大について

全国内水面漁業協同組合連合会

平成23年度から、湯川の禁漁区域が段階的に拡大されるとの情報がありません。

湯川流域の湿原が、釣り人によって踏み荒らされて保護できない状況にまでなったことがその理由です。

写真右の赤い矢印で示すような「踏み分け道」や、木道から川へ降りる場所が裸地化し、その復元が強く求められています。

湯川の釣りは、釣り人を調査研究の協力者と位置づけて増殖効果を調べることで、また、自然環境の保全と釣りの共生ができるかどうかの調査研究を行うことを目的に、(独)中央水産研究所と全内漁連が連携して管理してきました。



湯川と木道の間でできた「踏み分け道」

湯川は、日本におけるフライフィッシング発祥の地です。大自然に囲まれてゆったりと糸を振ることができる場です。

自然を愛する釣り人の皆さん、私たちは日光の戦場ヶ原で釣りをさせてもらっているとの原点に立ち返り、湿原を荒らさないようにしましょう。

また、どうすれば釣りとは湿原の保全とが共生できるか、私たちにできることを実践しましょう。



裸地化した川への降り口



湯川での釣り